社団法人　日本補綴歯科学会　　Japan Prosthodontic Society
発行人　赤川安正　　編集　広報委員会
〒170-0003　東京都豊島区駒込 1-43-9
社団法人　日本補綴歯科学会
Tel　03-5940-5451　　Fax　03-5940-5630

Letter for Members No. 20　2006

http://wwwsoc.nii.ac.jp/jpds/　2006.1.10 発行

《コンテンツ》

専門医制度の疑問にお答えします…… 1-3
第 114 回学術大会レポート…… 3-9
支部大会報告…… 9
関連学会報告…… 10，11
受賞者の声…… 11，12
関連学会のご案内…… 12

専門医制度の疑問にお答えします

Q1　専門医制度を制定した理由は？

A1　社団法人となった日本補綴歯科学会が，公益活動の一環として，この高い知識・技能・経験を広く国民に還元する責務があります．そのためには，国民に誰が専門性をもった歯科医であるかを知っていただく必要があります．厚生労働省告示 159 号によって，「専門医」は“厚労省で認可された専門医資格認定団体（学会）が認定する者”となりました．公的資格として認められ，外部への表示，すなわち広告も可能となりました．

この専門医資格を認定する団体となるためには，9 項目の基準を満たす必要があります．その 1 つに「歯科医師の専門性に関する資格の取得要件を公表していること」があり，日本補綴歯科学会が資格認定を申請するには，専門医制度を制定し，施行していることが必要でした．

社団法人日本補綴歯科学会が認定学会として認証され，補綴歯科診療の専門医を広く患者さんに表示することが，国民の QOL の維持・向上と健康長寿に貢献すると考えているからです．

Q2　専門医と認定医との違いは？

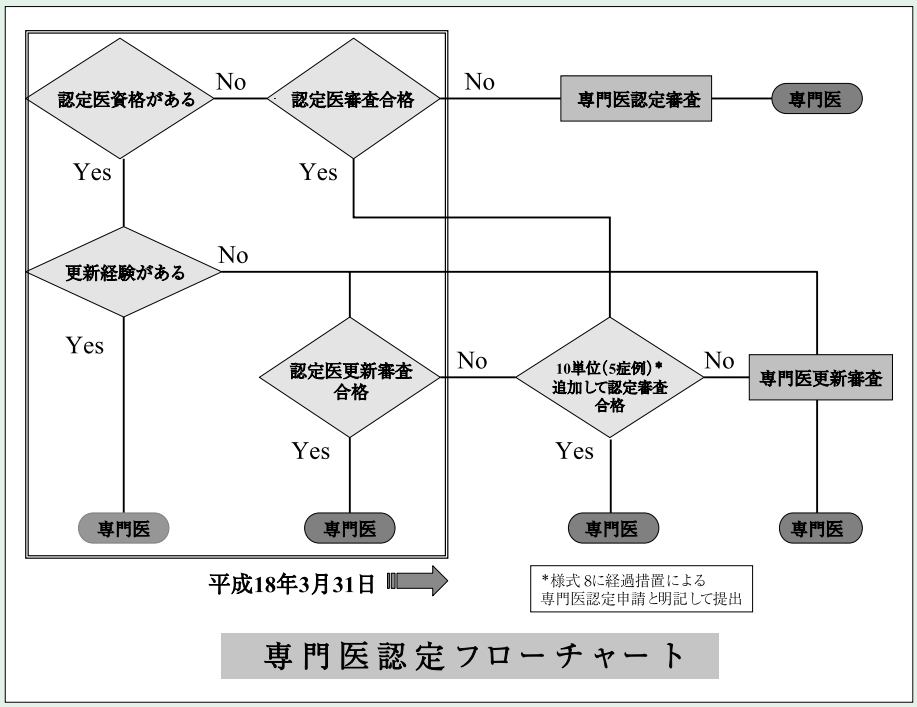
A2　A1にあるように，「専門医」は“厚労省で認可された専門医資格認定団体（学会）が認定する者”で，公的な資格です．これに対して，「認定医」はどんな学会でも設定した条件を満たせば認定医として認められます．学会内部で決められた資格であり，公的なものとは認められず，公に標榜はできません．

したがって，専門医には補綴歯科診療における高い診断・治療能力をもつだけではなく，倫理面でも厳しい条件が課せられています．

> 注）社団法人日本補綴歯科学会は現在，専門医資格認定団体（学会）として厚生労働省に認可を受けるために，日本歯科医学会認定医・専門医制度協議会での事前審査を受けている最中です．したがって，現時点では日本補綴歯科学会が認定する「補綴歯科専門医」は上記の公的資格ではないので，まだ公に標榜はできませんので注意して下さい．

Q3　専門医と指導医との違いは何でしょうか．指導医の役割は？

A3　専門医と指導医との関係は，これまでの認定医制度にあった認定医と指導医の関係と同じです．すなわち，認定研修を行う機関が必要であり，その機関には指導医がいなくてはなりません．したがって，新たに制定された専門医規則でも指導医の資格申請には「専門医であること」以外は，認定医規則と変更はありません．



専門医認定フローチャート

Q4 補綴歯科専門医と一般歯科医師（非専門医）との違いは？

一般臨床における専門医の役割は？

A4 専門医の役割は，一般歯科医師（非専門医）と連携をとり，補綴治療の難易度の高いLevel ⅢやLevel Ⅳに分類される症例を主として行うことです．この難易度とは，本学会が進めている「症型分類」を基準としています（補綴誌49巻2号，2005年4月号）．

専門医がこのような症例を主に行うことで，基本的な補綴歯科治療は一般歯科医師が担当し，難易度の高い症例は補綴歯科専門医が担当するというスキームが生まれ，診診連携や病診連携がスムーズにいくものと考えています．

もちろん，一般歯科医師が難易度の高い症例を担当することを制限するものではありません．しかし，これによって，①補綴治療の困難な患者への情報開示，②補綴治療の困難な患者の紹介先の選定，③歯科医師全体の補綴治療の診断と治療能力の向上，④補綴治療の質の向上，などがさらに推進されると考えます．

Q5 現在，認定医ですが，資格更新はまだ行ったことがありません．専門医に認定されるには，どのような手続きが必要ですか？

A5 平成18年3月31日までに，認定医の更新申請をして審査に合格すれば，専門医の資格が認定されます．この場合は，今回の専門医規則で追加された10単位（終了した5症例）は必要ありません．すでに資格の更新を1回以上行っている認定医と同じ扱いとなります．

平成18年3月31日までに更新の審査に合格できない場合，その後は追加の10単位（終了した5症例）が必要です．認定医期間に関係なく，追加の10単位（終了した5症例）分を認定審議会に提出し，専門医への更新の審査に合格すれば専門医と認定されます．あるいは，次回の更新時に専門医の更新要件を満たし，審査に合格すれば専門医に認定されます．

Q6 認定医ケースプレゼンテーションが終了し，現在，認定医を申請中です．

専門医の認定には何が必要ですか？

A6 認定審議会での審査に合格した場合には，認定医に準じるので追加の10単位（終了した5症例）を提出して審査に合格すれば，専門医に認定されます．この場合も認定医期間には関係なく専門医への更新の申請ができます．

Q7 現在，第114回学術大会あるいは平成17年度中に支部学術大会で認定医ケースプレゼンテーションを行い，認定審査を申請する予定です．専門医に認定されるにはどうすればよいですか？

A7 A6と同様の手続きとなります．しかし，認定審査の申請が平成18年3月31日以降になる場合は，専門医規則に沿って申請することとなります．

Q8　A5ーA7 をもっと単純化できないのでしょうか？

A8　現在，認定医資格をもち，平成 18 年 3 月 31 日までに認定医の更新審査に合格する人は，追加された 10 単位（終了した 5 症例）は必要ありません．それ以外で，更新前に専門医の認定を申請する人は，追加された 10 単位（終了した 5 症例）を必要とします．

なお，専門医認定フローチャートも参照して下さい．

認定審議会委員長　古屋良一
専門医制度検討委員会委員長　野村修一

第114回学術大会レポート

特別講演　“メダカ”に学ぶバイオサイエンス —補綴学のサイエンスのために—

講師：濱口　哲教授（新大副学長）
座長：赤川安正理事長（広大院）

濱口教授と赤川理事長

第 114 回学術大会の特別講演には，『“メダカ”に学ぶバイオサイエンス—補綴学のサイエンスのために—』と題し，新潟大学副学長・自然科学系教授の濱口　哲先生をお招きし，ご講演をいただきました．

濱口先生は，講演の冒頭で「バイオサイエンスを豊かにするのは臨床の場，バイオサイエンスを支えるのは原理主義である」と述べられ，講演の構成を，①メダカの紹介，②バイオサイエンスとメダカ，③メダカに学ぶ，④結びに代える，とされ，1 時間の講演でわれわれが日ごろ考えている「歯科補綴学のサイエンス」の入り口に誘われました．先生はご講演のなかで，普遍的価値を追求する科学の本質において，「メダカで」行う研究にオリジナルな価値を付与するのは「メダカを」研究した成果であることを強調されました．先生のテーマである「野生メダカを」研究することで普遍的な性決定機構を解明するとの先生の研究姿勢から，われわれは，臨床の場でのさまざまな現象から歯科補綴学のサイエンスはスタートすることを改めて学ぶことができました．ご講演の最後のスライドのなかで，野生メダカの現象から実験を通して原理を導き，また，原理から現象へのフィードバックがあることをわれわれの臨床の場にも当てはめられ，臨床の場での現象から生まれたテーマについて実験をし，その原理をみつけることが臨床の場を豊かにすることを示されました．多くの会員は，この講演を拝聴した後には，歯科補綴学が目指すサイエンスのアプローチングをしっかり見据えることができたものと思われます．そのうえに立って，（社）日本補綴歯科学会は「歯科補綴学のバイオサイエンスを豊かにする臨床とそれを支える原理を追求すること」を会員の皆さんと共有したいと考えます．大変ご多忙のなかを時間をさいて貴重なご講演をいただきました，濱口先生に満腔の謝意を表します．

（座長　赤川安正）

シンポジウムⅠ　支台歯をふやすストラテジー —(歯の)移植とインプラント— 遊離端欠損症例を中間欠損状態に変化させるために

座長：河野正司教授（新大院）
講師：榎本紘昭先生（関越支部）
「欠損歯列でのインプラントの役割」
下地　勲先生（東京都開業）
「(遊離端)欠損歯列と自家歯牙移植～移植をインプラントより優先させたい場合は？～」
井上　孝教授（東歯大）

「インプラントと移植歯牙を受け入れる欠損歯列の基礎」
渡邊文彦教授（日歯大新潟）
「インプラントリハビリテーションにおける力学的，生体力学的考察」
澤田宏二先生（新大院）
「移植歯の経過」

ディスカッションされる講演者

本学会では，ここ数年間にわたるシンポジウムにおいて，SDA や 8020 など欠損歯列の現状と，その治療に対する考え方の大きな流れについて学んできました．それとともに，近未来の補綴治療をみすえて，顎骨や支台歯に対する再生医療の可能性について学び議論してきました．補綴治療の大きな目的の１つは，咬合の形態的，機能的な回復にあります．このため，適用する補綴装置は，粘膜支持の構造体に比較して，歯根膜支持あるいは顎骨に直接支持される補綴装置には，大きな利点のあることはいうまでもありません．

このような状況下で，明日の治療の現実を考えると，欠損歯列のなかに支台歯を増加させる手法を適応することが重要となってきます．天然歯が欠損した歯列に支台歯を増す現実的な方法としては，未機能歯の自家移植やインプラント植立などの方法があります．

そこで大会第１日目に，大会場に座りきれずに後方に多くのお立ちの先生方がいらっしゃる盛況のなかで，移植とインプラントの実状について，その道の頂点にある臨床家を含めた先生方をお招きしてシンポジウムが行われました．

まず，欠損補綴におけるインプラント治療について榎本先生（関越支部）は，欠損部の咬合支持とともに，滑走運動時の歯のガイドについても，健常天然歯列と同様にインプラント自体によって回復することが，機能と形態の回復とその長期間の維持に重要であることを症例を通して力説されました．

また，自家歯牙移植による欠損歯列の補綴治療について下地先生（東京都開業）は，移植歯のもつ歯根膜機能がいかに有効に治療の施行と咬合機能の回復に作用するか，インプラントとの対比を示されながら説得力のある講演をされました．

さらに，井上先生（東歯大）は歯周組織の基礎，特にマラッセの上皮遺残の移植における重要性などの多くをご教授くださり，さらに研究機関の立場から渡邊先生（日歯大新潟）と澤田先生（新大院）に支台歯としてのインプラントと自家移植について最新の話題を提供していただきました．

欠損歯列の治療について，粘膜支持に頼らない補綴治療を行うために，咬合支持できる好ましい位置に自家移植やインプラントによって支台歯を増加させる場合，考慮すべき事項が明確となり，明日への新たな臨床指針が得られた大変有意義なシンポジウムでした．

（座長　河野正司）

シンポジウムII　歯科補綴のストラテジックプラン

座長：佐々木啓一教授（東北大院）
講師：平井敏博教授（北医大）
「健康科学としての歯科補綴学への期待」
市川哲雄教授（徳大院）
「少子高齢化社会における歯科補綴学の戦略」
田上直美講師（長大院）
「審美的固定性補綴装置のストラテジックプラン」
前川賢治講師（岡大院）
「口腔顔面痛，口腔運動器疾患に対する今後の研究ニーズとその戦略」

科学技術の著しい進歩発展は，従来の枠組みを越えた分野横断的研究や研究領域の再編，新たな研究領域の創出を加速しています．このような時代にあって歯科補綴学，歯科補綴臨床の将来は，本学会の戦略に委ねられています．本シンポジウムは，この命題に向き合い，学会活動の方向性に関するコンセンサスを形成することを目的として

企画されました．

左から佐々木座長，講師の平井，田上，前川，市川の各先生

本学会を構成する領域は多岐にわたっているため，専門領域の異なるシンポジスト４名から，おのおのの領域における今後の展望，望むべき方向性，それを具現化するうえでの学会としての戦略，という観点から講演がなされました．平井先生（北医大）は歯科補綴学を健康科学，生命科学として明確に捉え，健康，福祉への貢献を科学的に証明し，それを社団法人の学会としての責務として社会活動を通して社会へ還元することの重要性，その方策を提示されました．市川先生（徳大院）は「少子高齢社会」をキーワードに，補綴治療の検査，診断，治療・技術，評価というスキームの確立，*in vitro*，*in vivo*，*in silico* の研究の充実と有機的な連携．歯科補綴学特有の理論（スタンダード）の構築と認知，を学会として組織的に展開する必要性を，自身の研究展開をベースに提案されました．田上先生（長大院）は審美補綴，前川先生（岡大院）は頭頸部の筋骨格系疼痛疾患というそれぞれ研究ベースに基づき，その新たな展開，方向性を提案されました．ディスカッションでは各講演への賛同とともに教育，臨床に関する活動提案も多くなされました．まとめとして，重点的研究の推進，学会内あるいは他分野との研究連携，研究成果の社会発信を，学会として組織的にサポートし効率的に推進することが支持されたものと思われました．

おわりに，難題をお引き受けいただいたシンポジスト各位に，またこのような学会活動の方向性を諮る企画意図を理解して参加していただいた会員各位に感謝いたします．

（座長　佐々木啓一）

臨床教育研修　全部床義歯の臨床スキルの向上

座長：築山能大助教授（九大院）
講師：菊池雅彦教授（東北大）
「全部床義歯の印象採得」
鈴木哲也教授（岩医大）
「全部床義歯の咬合採得」
志賀　博教授（日歯大）
「全部床義歯に与える咬合様式」

今回の臨床教育研修では従来のオムニバス方式とは異なり，全部床義歯補綴を対象に絞り，そのなかでも「印象」と「咬合」にターゲットを当てさせていただきました．「全部床義歯の臨床スキルの向上」をセッションのテーマに，菊池先生（東北大）には「全部床義歯の印象採得」，鈴木先生（岩医大）には「全部床義歯の咬合採得」，志賀先生（日歯大）には「全部床義歯に与える咬合様式」というタイトルでご講演をいただきました．

菊池先生は，顎堤粘膜の被圧変位量，咬合圧負担の観点から，選択圧印象や無圧印象などの各種印象法について，また，閉口・開口による印象の辺縁形態（長さ）の違いについて，それぞれ実験データを用いてわかりやすく説明されました．鈴木先生は，術者が主体的に下顎位を設定し，その下顎位に患者さんが適応できるかどうかを判断することが重要である，そのためには各ステップで（下顎位が適切であることを）確認し，必要に応じて修正を行うことが重要であることを強調されました．最後に，志賀先生は，Gysi の歯槽頂間線法則に基づくフルバランスドオクルージョンを基本に，モノプレーンオクルージョンを含む各種咬合様式について，実際の患者さんの客観的データも交えつつ紹介されました．

実務面では，会場が少々混雑してしまいました．大会長の河野教授にはすばらしい会場を用意していただきましたが，こちらの読みが甘く，多くの先生方にご迷惑をお掛けしたことを，この場を借りてお詫び申し上げます．

最後になりますが，若い会員諸氏にあっては，講演で提示された臨床のヒントのおいしいところばかりをつまみ食いをして楽をするのではなく，労を惜しまず全力で臨床を行っていただきたいと願います．

座長の築山先生

（座長　築山能大）

研究教育研修Ⅰ　歯科補綴研究に役立つ統計学

座長：馬場一美講師（東医歯大院）
講師：横山徹爾先生（国立保健医療科学院）
「医学統計のつぼ」
窪木拓男教授（岡大院）
「実例からみた臨床研究デザイン立案と国際誌への論文投稿」

左から窪木先生と横山先生

今期学術委員会は第 114 回学術大会研究教育研修において若手研究者を対象として統計学についての研修会を企画しました．本研修会では，まず，医学統計の第一線で活躍されている横山先生（国立保健医療科学院）をお招きし，“医学統計のつぼ”と題したご講演をいただきました．講演では，データ整理の重要性，差の検定，変数間の関連性の検定などについて，適切な統計解析を行ううえで重要な事項を基礎的な内容から一歩踏み込んだ内容まで，明確にまた効果的に解説していただきました．統計学の基本的事項の背景にある重要な概念から，中堅研究者になじみの少ない高度な統計方法まで言及していただき，若手研究者のみならず，中堅の研究者にとっても非常に有意義な講演でした．

引き続き，窪木先生（岡大院）には，“実例からみた臨床研究デザイン立案と国際誌への論文投稿”と題するご講演をいただきました．ここでは，補綴学の分野における臨床研究の重要性が強調され，今後の補綴学分野における臨床研究の方向性についての先生のお考えが示されました．受講者には臨床研究・疫学に対する窪木先生の熱い思いが十分に伝わる講演でした．また，実際に投稿された論文に対して，査読者から指摘された統計解析の問題点を例証していただいたが，そのなかには横山先生の講義内容が効果的にフィードバックされ，受講者にとって興味深く，有意義な講演であった．

両先生には本研修会の趣旨を十分に理解していただき，会員の方にとって重要なトピックを厳選していただき，しかもそれらを解りやすく解説していただいたばかりでなく，講演終了後に行われた活発な質疑応答においても，１つ１つの質問に対して丁寧に解説をしていただいた．本研修会に対しては非常に多くの反響があり，今後も同様の企画を期待されている旨の声を数多くいただいた．本研究教育研修会が会員の方々の今後の研究活動の一助となれば学術委員会としてこのうえない喜びである．

座長の馬場先生

（座長　馬場一美）

研究教育研修Ⅱ　PRP のスキルアップセミナー

座長：松村英雄教授（日大）
講師：中村隆志助教授（阪大院）
二川浩樹教授（広大）

本学会第 114 回学術大会（新潟市）において，第２日に研究教育研修Ⅱとして「PRP のスキルアップセミナー」が開催されました．大会長のご配慮により，昼休み直後のウラ番組がない時間帯に開始を設定していただき，また外が雨天で行楽日和でなかったことも幸い（？）し，多くの会員に出席いただきました．

今回のセミナーは，学会の英文誌である Prosthodontics Research & Practice（PRP）が来年から年４回発行されるにあたり，PRP の存在，編集方針を会員に周知し，できるだけ多くの原稿を投稿いただくことを目標として企画された．初回は英文誌担当編集委員２名が PRP の紹介を兼ねて講演を行いました．

まず，大阪大学大学院の中村先生が PRP の概要を説明されました．要約すると以下のとおりです．① PRP は印刷物も供給されているが，一方

では電子ジャーナルでもある．②パスワードを入力するとコンピュータの画面上に雑誌が現れ，必要に応じてプリントもできる．③科学技術振興機構が運営しているデータベース J-STAGE に収載されており，文献検索機能も付随している．④迅速な査読と著者にとって有用なコメントを提供できるよう留意している．⑤採択率がきわめて高い，などです．

続いて広島大学歯学部の二川先生から原稿作成のノウハウについて講演いただいた．表題のつけ方，論文の構成要素に記載すべき事項，web 辞書の活用法，文章の作成法など，著者兼査読編集者としての体験談を含めた貴重な内容が供覧されました．

なお，編集委員会ではセミナーの続編を企画しており，学術大会，支部会などにおいて新しい話題を加えながらの開催を予定しています．雑誌が年４回発行になると，採択から発行までの待ち時間が大幅に短縮されます．会員各位の研究成果を迅速に英文で報告できる場として，PRP を積極的に活用していただくようお願いする次第です．

座長の松村先生

（座長　松村英雄）

市民フォーラム　**広げよう！要介護者への口腔ケア―咬める入れ歯と口腔ケアで介護予防―**

第１部　関係者の連携による要介護者への歯科治療・口腔ケアの推進に向けて

講師：野村修一教授（新大院）

「新潟県における厚生労働科学研究３年間の成果―要介護者用クリニカルパス（地域パス）を中心として―」

石井拓男教授（東歯大）

「歯科治療・口腔ケアの効果とクリニカルパスの応用」

第２部　実践　介護予防のための口腔ケア

講師：片山　修先生（新潟県歯科医師会）

「要介護者の口腔ケア確保に向けた取り組みと成果」

杉本智子先生，高橋純子先生（新潟県歯科衛生士会）

「すぐできる　食事介護と口腔ケアのポイント」

伊藤加代子先生，田巻元子先生（新大院）

「やってみよう　介護予防のためのお口の体操」

口腔ケアのポイントを実演する杉本先生と高橋先生

平成 18 年度から新たに創設される介護サービスに「口腔機能向上」が取り入れられ，要介護者の口腔ケアに対する認識は急速に高まっていることを背景に，新大院の河野正司先生を主任研究者とした厚生労働科学研究班の研究成果を，市民に広く理解していただくために企画された市民フォーラムです．

新潟県内のモデル地区を対象に，要介護者の口腔ケアを確保するためのシステム作りを３年間実施し，最終的な成果の１つとして，その【クリニカルパス】が野村先生により紹介，説明されました．石井先生からは，入院患者の QOL を高めるには，急性期におけるクリニカルパスに【標準化された口腔ケア】を組み込むことが重要であることが示されました．片山先生は新潟県における要介護者の歯科保険医療確保に向けてのさまざまな取り組みを紹介されました．一方，衛生士として上記の研究に参加された杉本・高橋先生は，研究班が作成したクリニカルパスを，介護職員や要介護者ご本人・家族が行うデイリーケアとしての口腔ケアのポイントを【マニュアル】としてまとめたものを，実演を交えて紹介されました．また伊

藤・田巻先生は口腔機能の低下を防ぐための【お口の体操実演DVD】の映像を，参加者全員での体験を促しながら紹介され，長時間にわたる市民フォーラムをあたかもラジオ体操を終えたかのような，スッキリした状態にされ終了しました．

市民フォーラムに参加された方々に対するアンケート（回収97枚）からは，講演内容に満足・大体満足は81%であり，【口腔ケアマニュアル】や【お口の体操実演DVD】は大変有用であり，明日からでも現場で使ってみたいとの感想をいただきました．一方，【補綴】認知に対する質問では，補綴という言葉が出てこなかったし説明もなかったのでわかりませんでしたという意見もみられました．

積極的にフォーラムに参加する聴衆

（社会連携委員長　冲本公繪）

第1回専門医研修会

補綴装置に付与すべき咬合接触―クラウン・ブリッジについて―

座長：野村修一教授（新大院）
講師：皆木省吾教授（岡大院）
「機能運動への対応」
押見　一先生（東京都開業）
「力への対応」

専門医制度の発足に伴い，認定医研修会から衣替えした専門医研修会は，会場がほぼ満席になるほど多数の参加者がありました．今回の研修会のテーマは「補綴装置に付与すべき咬合接触―クラウン・ブリッジについて―」で，そのねらいは，クラウン・ブリッジに付与する咬合接触について，咬合論ではなく臨床的な考え方とそれを具現する術式の紹介にあることが座長から説明されました．

引き続き，皆木先生（岡大院）から「機能運動への対応」，押見歯科診療室の押見先生から「力への対応」と題する講演がありました．

皆木先生はまず，精密な機能的咬合の付与が必要な臨床的場面を提示された後に，わずかな咬合接触の修正を誤差なく新しい歯冠修復物の咬合面に具体化させる方法である「2回鋳造法」の基礎と実際を詳しく説明され，最後に症例を提示して2回鋳造法の有用性を紹介しました．

押見先生は，まず「力」って何？と問いかけて，ブラキシズムは口腔がブラキシズムという方法を通じてストレスを管理する機能を担っているという解釈を紹介しました．次に，ブラキシズムが起こすさまざまな現象とブラキシズムへの対応を解説されました．具体的な対応法として，受圧の面から補綴装置に付与すべき咬合接触，加圧の面からカウンセリング，自己暗示，自律訓練法などが紹介されました．最後に，背景にある生活環境にも目を向けた「患者さんを真ん中におく歯科臨床」の重要性を強調されていました．

講演後は会場から日頃臨床で悩んでいることや，臨床術式の詳細について活発な質問や意見が出て，参加者ならびに講師にとって臨床に直結した情報を交換できた研修会でした．

座長の野村先生

（座長　野村修一）

受賞者紹介

第114回学術大会の課題口演コンペティション優秀賞，デンツプライ賞受賞者をご紹介いたします．

課題口演コンペティション優秀賞

1-1-5　高齢者の咀嚼能率とOral Health Impact Profile-14との関係
○枦山智博（阪大院）

1-1-7　睡眠時ブラキシズムに対するオクルー

ザルスプリントの効果について
○原田武洋（九大院）

1-1-9　顎機能障害寄与因子の前向きコホート調査
ー 2.5 年間の調査結果からー
○藤澤政紀（岩医大）

1-2-4　義歯床下骨組織の吸収に対する Bisphosphonate 局所投与の影響
○花田俊士（岡大院）

1-2-6　Homeobox gene Msx2 による未分化間葉系細胞の分化方向のスイッチング
○市田文孝（阪大院）

1-2-7　パウダージェットデポジションによる歯質上への HA 膜形成と評価
○野地美代子（東北大院）

デンツプライ賞

1-3-18　顎堤条件から検討した臼歯部人工歯の排列位置
○大貫昌理（鶴見大）

1-3-22　残存歯質量とポスト長がファイバーポスト併用支台築造の破折強度と様相に及ぼす影響
○大祢貴俊（鶴見大）

1-3-35　咀嚼に伴う食品物性変化に関わる大脳皮質活動領域
○高橋敏幸（北大院）

1-3-38　磁気センサーを用いた咬合高径測定装置の開発
○藤井芳仁（新大院）

1-3-49　ガラスファイバー強化型コンポジットレジンのクラスプへの応用ーその 2ー
○瀧田史子（朝日大）

1-3-67　要介護者口腔保健医療ケアに係るクリニカルパスの開発
第 5 報　クリニカルパスの作成
○ 伊藤加代子（新大院）

＊発表者のみ記載

支部大会報告

社団法人日本補綴歯科学会
中国・四国支部，九州支部合同学術大会

平成 17 年 9 月 3 日（土）· 4 日（日）に，初の試みとなった中国・四国支部と九州支部の合同学術大会が，山口県歯科医師会館において，山口県歯科医師会長右田信行先生を大会長として開催されました．両支部の当番校である広島大学大学院先端歯科補綴学研究室および鹿児島大学大学院咬合機能補綴学分野の先生方のご尽力もあり，両支部の先生方で大盛況でした．

特別講演「歯科の金属アレルギー」〔座長：坂東永一教授（徳大院），講師：藤井弘之教授（長大院）〕，生涯学習公開セミナー「よくわかるゴシックアーチとチェックバイト」〔座長：皆木省吾教授（岡大院），臨床の疑問提示：武居良裕先生（山口県開業），講師：古谷野　潔教授（九大院）〕，市民フォーラム「噛み合わせと入れ歯が介護をたすける」（座長：山根　進先生（中国・四国支部），講師：鱒見進一教授（九歯大），池田弘一先生（中国・四国支部），冲本公繪助教授（九大院）），シンポジウム 1「外から見た我が国の歯科補綴」（座長：佐藤博信教授（福歯大），講師：城戸寛史先生（福歯大），梶原浩忠先生（鹿大院），松香芳三先生（岡大院），永尾　寛先生（徳大院）），シンポジウム 2「新技術・新材料を日常の臨床にどう活かすか」（座長：田中卓男教授（鹿大院），講師：木下智恵先生（鹿大院），田上直美先生（長大院），細川隆司教授（九歯大），村田比呂志先生（広大院））の盛りだくさんな企画に加えて，一般演題 23 題，認定医申請ケースプレゼンテーション 6 題と大変多くの発表が行われました．場内に入りきれない聴衆が出る会場もあり，2 日間の大会は盛会裡に終了しました．

満員の生涯学習公開セミナー

（広報　細木真紀）

関連学会報告

第35回社団法人日本口腔インプラント学会学術大会

平成17年9月16日（金）から18日（日），木村博人大会長（弘前大）のもと，「先進展開するインプラント治療―エビデンスとコンセンサスを求めて」をメインテーマに，第35回社団法人日本口腔インプラント学会学術大会が開催されました．

弘前城を中心に，市内の4会場で200を超える演題が発表され，各会場で活発な議論が繰り広げられました．

17日には，弘前市民会館大ホールで，特別講演Ⅰ「Evidence Based Implantology」と題し，E.S. Rosenberg教授（Pennsylvania大）が，自身の臨床経験，最近の文献をもとに，さまざまな臨床上の問題にエビデンスを構築することの試みを講演されました．続いて開催されたシンポジウムⅠでは「口腔インプラント治療におけるOptimal Treatment Guideline」と題し，（社）日本補綴歯科学会指導医の武田孝之先生（東京支部），椎貝達夫先生（関越支部），歯周病学会指導医の西堀雅一先生（東京都開業），口腔外科学会指導医の高橋　哲先生（九歯大）が，それぞれの立場からインプラント治療の評価について講演されました．

18日も，特別講演，シンポジウム，ワークショップ，ランチョンセミナー，コ・スタッフ・セッションなど盛りだくさんのプログラムでした．

補綴歯科，口腔外科，インプラント科などの研究者が集うだけではなく，開業医の先生が多数出席されることに，この学会の特色を感じました．

Rosenberg教授と木村大会長

（大阪歯科大学　鶴身暁子）

第16回日本歯科審美学会学術大会

平成17年10月8（土），9（日）日の両日にわたり，大阪市・大阪国際会議場において大阪府開業の諏訪富彦先生を大会長として，第16回日本歯科審美学会学術大会が開催されました．「傾聴，共感，共生と審美歯科」というメインテーマに基づき，会長講演，基調講演，特別講演，6題の教育講演が行われました．また，「コンポジットレストレーションと審美歯科」，「オールセラミックレストレーションと審美歯科」，「インプラントと審美歯科」，「その他の課題と審美歯科」という4テーマにおいて，16題のクリニカルセミナー，5題のランチョンセミナーが行われました．

その他にも市民を対象とした市民フォーラム，ブラジル，韓国，スイスから招かれた講師による招待講演と，総勢39名の講師による国内外の最新情報が満載されたプログラムとなりました．

40題の登録があったポスター発表は臨床，研究の両分野から審美歯科をとらえた充実した内容で，活発な質疑応答や情報交換が行われました．

562名という過去最多の参加者数が示すように，本大会は盛況のうちに閉会致しました．

（東北・北海道支部　照井崇之）

第53回米国顎顔面補綴学会

米国顎顔面補綴学会（American Academy of Maxillofacial Prosthetics，AAMP）の2005年度学術大会（第53回）が，大会長Thomas J. Vergo Jr.のもと，平成17年10月22日（土）から25日（火）まで，Los AngelesのHyatt Regency Century Plaza Hotelにおいて，開催されました．

初日のCompetition Poster Presentationは10題で，日本からは，“Evaluation Masticatory Function in Maxillofacial Prosthesis Patients”（門田先生，東医歯大）と，“Evaluation of Voice Quality with Acoustic Measurements in Mandibulectomy Patients”（宮原先生，東医歯大）の2題の発表が行われました．また，通常のPoster Presentationも同時に12題発表され，日本からは，“Evaluation of Facial Impression Technique using a Non-Contact 3-D Digitizer”（尾澤先生，愛院大），“Modulation of Medullary Dorsal Horn Neuronal Activity following Experimental Dental Implantation in Rats”（三橋先生，日大），“A Case Report of Facial Prosthesis with OP-Anchor Attachment”（隅田先生，東医歯大）の3題の発表が行われました．

2日目から4日目までScientific Programが始まり，顎顔面補綴学にかかわるさまざまなテーマで論じられました．次期大会長にはRhonda F. Jacob先生がAAMP初の女性大会長として就任

され，次期（第 54 回）大会はハワイにて International Society for Maxillofacial Rehabilitation（ISMR）の第 7 回大会との Joint Symposium で開催されることが発表されました．

初日，Poster Presentation 会場の様子

（広報　谷口　尚）

受賞者の声

（社）日本補綴歯科学会第 114 回学術大会 課題口演コンペティション賞

藤澤政紀（岩医大）
「顎機能障害寄与因子の前向きコホート調査
―2.5 年間の調査結果から―」

第 114 回学術大会課題口演コンペティションの受賞者に選出していただき，大変光栄に思っております．顎機能障害の発症に関しては幾多の寄与因子が挙げられておりますが，咬合の関与についてのエビデンスはいまだに「ある」とも「ない」ともはっきりしないまま，「明確な関与があるというエビデンスはない」とされています．また，かつて ME 機器を使用した幾多の発表がなされたものの，ME 機器による顎機能検査の意味が明確でないとの論説が 16～17 年前に出され，心なしかこの分野の研究の勢いが押さえられた感があります．咬合をはじめとするいくつかの顎機能障害寄与因子候補の白黒をはっきりさせたい，しかも ME 機器，心理テスト，臨床所見，問診票など多角的なパラメータで検証したい，という観点で 10 年前に調査に着手しました．結果として側方運動時の犬歯が関与しない作業側臼歯ガイド，不安傾向が高い心理特性，咀嚼筋の圧痛感受性が症状発症の寄与因子として抽出されました．臨床研究はデータのばらつき，思わぬ交絡がつきものです．悩み苦しみを分かち合った教室の仲間とともに結果の一部をまとめるところまでこぎ着けたことは嬉しいかぎりです．今後，分析を発展させ顎機能障害の予防に貢献できるデータを積み重ねて行きたいと思います．

市田文孝（阪大院）
「Homeobox gene Msx2 による未分化間葉系細胞の分化方向のスイッチング」

この度は第 114 回学術大会課題口演コンペティションの受賞者に選出していただき，大変光栄に思います．今回受賞させていただいた発表内容は，大学院４年間で行った研究の結果です．顎関節・咬合科（旧第一補綴科）に大学院生として入局したものの，研究は生化学教室で行い，与えられた研究テーマがホメオボックス遺伝子 Msx2 についてでした．大学生時代あまり勉強をしてこなかったせいか，当初はゼロから始めた分子生物学にかなり苦労しましたが，最終的にはこのような賞がいただけ大変うれしく思います．

今回の研究により，骨形成誘導因子 BMP2 により発現が誘導される Msx2 は，骨芽細胞分化を促進させる一方で，骨芽細胞と細胞起源を同じくする脂肪細胞への分化を抑制することが明らかとなりました．さらに骨芽細胞分化過程においては，骨芽細胞分化に必須とされている転写因子 Runx2 には非依存的に作用していることが明らかとなりました．今回の研究は臨床とは直結しないかなり基礎的な研究ですが，将来的に BMP2 の臨床応用を通して骨の再生への一助となればと期待しています．

最後になりますが，このような機会を与えてくださった大阪大学大学院歯学研究科顎口腔再建学講座の矢谷博文教授に感謝するとともに，実験に関して，終始ご指導賜りました同生化学教室の米田俊之教授と西村理行助教授に厚くお礼申し上げます．

（社）日本補綴歯科学会第 114 回学術大会 デンツプライ賞

大祢貴俊（鶴見大）
「残存歯質とポスト長がファイバーポスト併用支台築造の破折強度と様相に及ぼす影響」

このたびは，第 114 回日本補綴歯科学会学術大会デンツプライ賞の受賞者に選出していただ

き，大変光栄に存じます．大学院の研究テーマとして大変興味深く進めてきた研究だっただけに，とてもうれしく思います．

接着の信頼性が高まり，審美性を深く追求するようになった近年の風潮から，レジン支台築造を行う機会が増え，築造体を補強するための既製ポストとしてファイバーポストが世界的に注目を集めています．今のところファイバーポストは臨床上の評価が高く，鋳造支台築造法や金属製の既製ポストを使用するよりも歯根破折，審美性の面で有利な点が多いとされています．しかし，コンポジットレジンの臨床操作はテクニカルセンシティブなため症例を選ぶことが望ましく，長期にわたる臨床経過を追う必要があると感じます．本研究では，歯冠部残存歯質によって帯環効果が発揮されればファイバーポスト併用レジン支台築造法においてポスト長を短縮できる可能性を示唆しました．

今回は今までの大学院生活で最も過酷な実験で，クラウンや築造体を何百個も鋳造したり，ウシの歯を試料にしたため，BSE 問題に絡んだりといろいろ大変だったので受賞できたことをとてもうれしく思います．

このような機会を与えて下さり，終始ご指導賜りました福島俊士教授，坪田有史先生に厚くお礼申し上げます．また，学会でポスター発表を通じてさまざまなご意見をくださった先生方に感謝いたします．本当にありがとうございました．

関連学会のご案内

84th General Session & Exhibition of the IADR

日　時：2006年6月28日（水）～7月1日（土）
場　所：BRISBANE, AUSTRALIA
IMPORTANT DATES：

- February 3, 2006：Abstracts Submission Deadline
- February 10, 2006：Replacement Abstracts Deadline
- April 5, 2006：Acceptance/Rejection Notifications Sent
- April 28, 2006：Presenter Pre-registration Deadline
- May 5, 2006：Non-presenter Pre-registration

http：//www.dentalresearch.org/meetings/brisbane/index.html

第36回（社）日本口腔インプラント学会学術大会（第26回（社）日本口腔インプラント学会関東甲信越支部総会併催）

日　時：平成18年9月15日（金），16日（土），17日（日）
場　所：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター
大会長：畑　好昭（日本歯科大学新潟歯学部歯科補綴学第二講座）
メインテーマ：先進展開するインプラント治療
サブテーマ：人種，食生活によりインプラント治療に違いがあるか
演題・抄録申し込み：平成18年2月1日（水）～5月5日（金）
事前登録受付：平成18年2月1日（水）～8月15日（火）

演題・抄録申し込みは，すべて大会ホームページよりEメールによる申込．
http://www.jsoi2006.jp/

連絡先：〒951-8580　新潟市浜浦町1-8
日本歯科大学新潟歯学部歯科補綴学第2講座
（準備委員長：渡邉文彦）
TEL：025-267-1500（内線311）
FAX：025-231-0231
E-mail：implantology@ngt.ndu.ac.jp

リニューアルした（社）日本補綴歯科学会のホームページを（http://wwwsoc.nii.ac.jp/jpds/）是非ご覧下さい．

社団法人 日本補綴歯科学会 広報委員会
委員長　石橋寛二　副委員長　佐藤博信
委　員　北川　昇　田中昌博　谷口　尚　細木真紀
幹　事　金村清孝
TEL：019-651-5111（内4127）
FAX：019-654-3281
E-mail：kohojps@iwate-med.ac.jp
〒020-8505　岩手県盛岡市中央通1-3-27
岩手医科大学歯学部歯科補綴学第二講座